

図書館の本だな

～3・4年生 おすすめの本のリスト 2025～

ふまんばかりのメシュカおばさん



アーノルド・ローベル え キャロル・チャップマン さく こみや ゆう やく
好学社 EーQ

ちいさなむらにメシュカという、ふまんばかりをいうおばさんがいました。あるあさ、メシュカのしたがちくつといたみましたが、それでもふまんしかいいませんでした。すると、むすこのすがたがピクルスになったり、メシュカのあしがかぼちゃにかわり、ふらついてひっくりかえったところにいしのかべがのしかかってきて、うごけなくなってしまいました。そこへ、がくしゃのラビがやってきて、これまでおこったことはぜんぶ『ふまんびょう』のせいなのだといいます。

さかさ町



F.エマーソン・アンドリュース 作 小宮 由 訳 岩波書店 933ーア

リッキーとアンは汽車^{きしゃ}にのっておじいちゃんの家^{いえ}にむかっていた。ところが、線路^{せんろ}の事故^{じこ}があり、さかさ町^{まち}でまつことになります。さかさ町^{まち}にはルールがあつて、すべてのことがさかさです。家は地面^{いへ}にひっくりかえったように建^たっていて、ホテルでは子どもがはたらき、おとしよりはあそんでいました。リッキーは、なんだかさかさ町^{まち}がすきになってきました。

ゆうすげ村の小さな旅館



茂市 久美子 作 講談社 913ーモ

ゆうすげ村^{むら}に、つぼみさんという年^{とし}とったおかみさんがひとりできりもりしているゆうすげ旅館^{りょかん}がありました。ある日^ひ、たくさんのお客^{きやく}があり、息つくひまもありません。つい、「だれか手^てつだってくれるひとがいないかしら」とひとりごとをいいました。その翌朝^{よくあさ}、台所^{だいどころ}のドアのむこうでかわいい声^{こゑ}がしました。ドアをあけてみると、色白^{いろしろ}のぽっちゃりとしたむすめが、お手つだいにきたといったたっています。(『ウサギのダイコン』)

バレエをおどりたかった馬



H・ストルテンベルグ 作 菱木 晃子 訳 福音館書店 949-ス

ある日、いなかに住む馬は道にまよった旅のバレエ団を駅まであんないします。バレエ団の人は、お礼にバレエを見せてくれました。はじめて見たバレエにすっかり夢中になった馬は、どうしたらおどれるようになるかバレエ団の人にききます。すると、町のバレエ学校でなったとおしえてくれました。ある朝、馬はバレエをならうために町へいくことにしました。

ひまなこなべ アイヌのむかしばなし



どい かや 絵 萱野 茂 文 あすなろ書房 E-ド

わたしはくまの神です。なんねんかにいちど、アイヌの国の心とたましいのうつくしい人のところへ、おきゃくとしていき、おみやげをもらって神の国へかえります。ある日、心のいいアイヌのいえへまねかされると、たのしいよるのうたげがはじまりました。わたしは、人びとのなかに、とくべつおどりがじょうずなわかものがいることにきがつき、そのわかもののおどるすがたをわすれることができませんでした。

くしゃみ くしゃみ 天のめぐみ



松岡 享子 作 福音館書店 913-マ

むかし「くしゃみのおっかあ」とよばれるおばさんがいました。おばさんは、人はもちろん牛や馬までふきとばすくしゃみをします。ある日、一人前になったむすこの「はくしょん」がてんぐ山のむこうまでいきたいといひます。おっかあは、一世一代のおおくしゃみではくしょんをふきとばし、はくしょんはてんぐ山のかなたにきえていきました。落ちたところは長者やしきのにわでした。

りこうなおきさき



モーゼス・ガスター 文 光吉 夏弥 訳 岩波書店 979-ガ

ある日、王さまが大臣に市でヒツジを売って、売れたお金といっしょにヒツジもつれてかえるようにめいじます。むずかしいめいれいにすっかりこまってしまった大臣でしたが、なんなくやってのけました。それは、とほうにくれていた大臣をみたむすめの入れぢえだったのです。そこで王さまは、こんどはそのむすめになぞのようなめいれいをし、ごてんにくるようによひます。



ぶたのめいかしゅローランド

ウィリアム・スタイグ さく せた ていじ やく 評論社 Eース

むかし、ローランドと言うおんがくかで、歌の天才野ブタがいました。ある日、ともだちから、「とおくへたびをして、てんかにきみののどをきかせてやっては」といわれます。そこでローランドは、とうとう、ひろいせけんにでかけました。たびのとちゅう、さびしくなつてうたをうたっていると、きつねがこえをかけてきて、きゅうでんへつれていってあげるといいます。



ひき石と24丁のとうふ

大西 暢夫 著 アリス館 619-オ

いわてけん ひとごと やまおくに、90さいをこえたミナさん一人で ひとり いとな おやまだとうふてん 営む小山田豆腐店があります。ミナさんはみず ふやかした だいず ひき石の穴に入れて「キー ゴロゴロ キー ゴロゴロ」と、すりつぶします。24ちょうのお豆腐をつくるための だいず ひくだけでも6じかんはかかります。きょう 今日ミナさんは、やま みず つか まき ひかげん むかし おな あじ いま のこ 山の水を使い、薪の火加減で昔と同じ味を今に残しています。



ことばあそびうた また

谷川 俊太郎 詩 福音館書店 911-タ

「ねたね うたたね ゆめみたね」「かえるかえるは みちまちがえる」など、聞きなれたリズムの言葉が、ことば たの え 楽しい絵とともに書かれています。なんどもこえ だ よ 声に出して読んでみましょう。ことばのリズムに からだ こころ 体も心もはずみます。

「図書館のほんだな」でしょうかい 紹介している本は

加古川市立中央図書館	☎ (425-5200)
加古川市立加古川図書館	☎ (422-3471)
たんようウェルネスパーク図書館	☎ (433-1122)
加古川海洋文化センター図書室	☎ (436-0940)

にあります

